



は高校教諭として生物を教えていました。しかし、大学時代の研究フィールドが乗鞍岳だったことから「山で働く仕事がしたい」と思い立ち、教員を辞めてアクティブ・レンジャーに。梅田さんの1年前に戸隠自然保護官事務所に赴任しました。

この町にいるだけで安心できます（前田さん）。
こう話すふたりが信濃町で特に力を入れている活動が「野尻湖と親しむプロジェクト」。2008年から地域の人が中心となり、漁協や信濃町役場が参加する中で、野尻湖の活用について話し合い、遊歩道の整備やナウマンゾウのミニメント設置などを行っている事業です。2017年にはふたりの呼びかけでメンバーが野尻湖の遊歩道を歩き、沿道の景観の支障と

なる雑木等を町に頼んで伐採してもらいました。
「国立公園は観光客が訪れ、地域にお金を落としてもらってこそ価値がある。それを常に念頭に置いて仕事をしています。信濃町の人には国立公園の規制が強いイメージから厄介なものという意識があるようですが、そもそも国立公園はなりたくてなれるものではなく、さまざまな運動を展開し、苦勞をしても認定されない地域が多々あります。そのなかで信濃町では国立公園を地域資源のひとつと捉え、

活用してもらえたらうれしいですね（前田さん）。
「それに、国の職員が現場にいる事務所はなかなかありません。だからこそ、いくらでも私たちを活用してほしい。私たちは地域内で『地元だけではうまくいかない』という活動の時に役割を担えたらいいと思っています（梅田さん）。」
そうした思いを踏まえ、国立公園を通じて地元の人が元気になるなど、地域全体の活性化を願うふたり。生き生きと話すその笑顔が信濃町の未来を明るく照らすようでした。



環境省 長野自然環境事務所
戸隠自然保護官事務所
長野市戸隠豊岡9794-167
026-254-3060
<http://chubu.env.go.jp/nagano/>
[アクティブ・レンジャー日記]
<http://chubu.env.go.jp/blog/index.html>



国立公園の自然環境を守り 地域をつなぐ、 レンジャーのしごと。

環境省 長野自然環境事務所 戸隠自然保護官事務所
—— 自然保護官 梅田 実生子さん
自然保護官補佐 前田 久美子さん



地域全体で国立公園の価値や魅力を発信し、仲間の輪を広げることでもっと町を豊かに。

自然保護官（レンジャー）という仕事をご存知でしょうか？国立公園などで自然環境保護のために活動する環境省の国家公務員で、自然と人を相手に仕事をしています。実は信濃町でも活躍中。2015年に上信越高原国立公園から分離独立し、野尻湖や黒姫山を含む国内32番目の国立公園として誕生した「妙高戸隠連山国立公園」の長野県側を守っているのが、戸隠自然保護官事務所のレンジャー・梅田実生子さんと自然保護官補佐（アクティブ・レンジャー）の前田久美子さんです。

活動内容は登山道の巡視や維持管理、外来植物の駆除のほか、国立公園の利用促進のために子ども向けの自然観察会などを開催することも。そして一番の業務が、自然公園法のもと国立公園に建てる建物等の審査を行い、景観を守ることです。そのうえで、環境省では国立公園の協働型管理を提唱し、地元の市町村や住民、民間企業と一緒に国立公園を活性化しています。

「行政や観光協会、登山ガイド、博物館の学芸員など、同じ地域で暮らし、同じ志をもつ異業種の人たちのつながりをつくるのが私たちの主な仕事です。自然公園法の性質上、国立公園は木の伐採や看板の設置をしてはいけないイメージがありますが、必要なものは私たちに伝えてもらえたら実現できる方法を考えます。そこでまずは話しやすい雰囲気をつくるよう、いろいろな会議や集いに顔を出しています（前田さん）。」

「そうしたなかで一番心がけているのは、情報共有を常にオープンにし、必要なところに情報を届けることです（梅田さん）。」

そもそもふたりがこの仕事に就いたきっかけとは――。福井県出身の梅田さんは京都大学農学部森林科学科に進学し、大学院に進むも「直接自然と関わる仕事がしたい」と中退し、2014年に環境省に入省。翌年、妙高戸隠連山国立公園誕生と同時期に戸隠自然保護官事務所に着任しました。

「信濃町は3つの火山に守られ、野尻湖という水辺もあって落ち着く場所だと感じています。また移住者が多く、新しい人を受け入れる素養があつて、彼らがのびのびと暮らしつつ新たな取り組みが生まれているのも魅力です（梅田さん）。」

一方、東京都出身の前田さんは都内の大学で生物学を学び、大学院修了後